



平成 29 年 7 月 5 日
海上保安庁

西之島の噴火について（6月29日観測）

6月29日午後1時25分から午後2時15分の間、当庁羽田航空基地所属航空機 MA725により、西之島の火山活動状況を確認しました。

1．火山活動の状況

火砕丘中央の噴火口より数秒から約 30 秒間隔で小規模な噴火が発生し、灰色の噴煙が火口縁から高さ約 200m まで放出されていました（図 1 参照）。

溶岩流が西岸から海へ流入し、先端からの白色蒸気を確認しました（図 1 参照）。

火砕丘南山腹に新たな溶岩流出口を確認しました（図 2 参照）。

同乗した東京工業大学火山流体研究センターの野上健治教授からは、「平成29年4月の噴火開始当初に比べて、噴火は断続的になっているものの、大きな噴石の飛距離はのびている。この噴火様式の変化はマグマの供給量が若干減少している可能性を示唆するが、噴火活動の終息を示すものではない。」

とのコメントが得られました。

火山活動が続いていますので、海上保安庁では引き続き航行警報により付近航行船舶に注意を呼びかけています。

2．4月20日の新たな噴火以降に形成された陸地の状況

先月発行した西之島の海図記載の海岸線（平成28年12月測量）に対して、溶岩流の先端が2ヵ所で海上に張り出し、西へ約330m、南西へ約310m拡大していました（図 3 参照）。

< 参考 >

6月29日時点での西之島の形状（暫定値）

- ・東西：約2,100m（5月2日時点約2,000m）
- ・南北：約1,900m（5月2日時点約1,900m）
- ・面積：約2.9平方km（5月2日時点約2.8平方km）



図1 火砕丘での噴火と拡大した溶岩流（6月29日撮影）

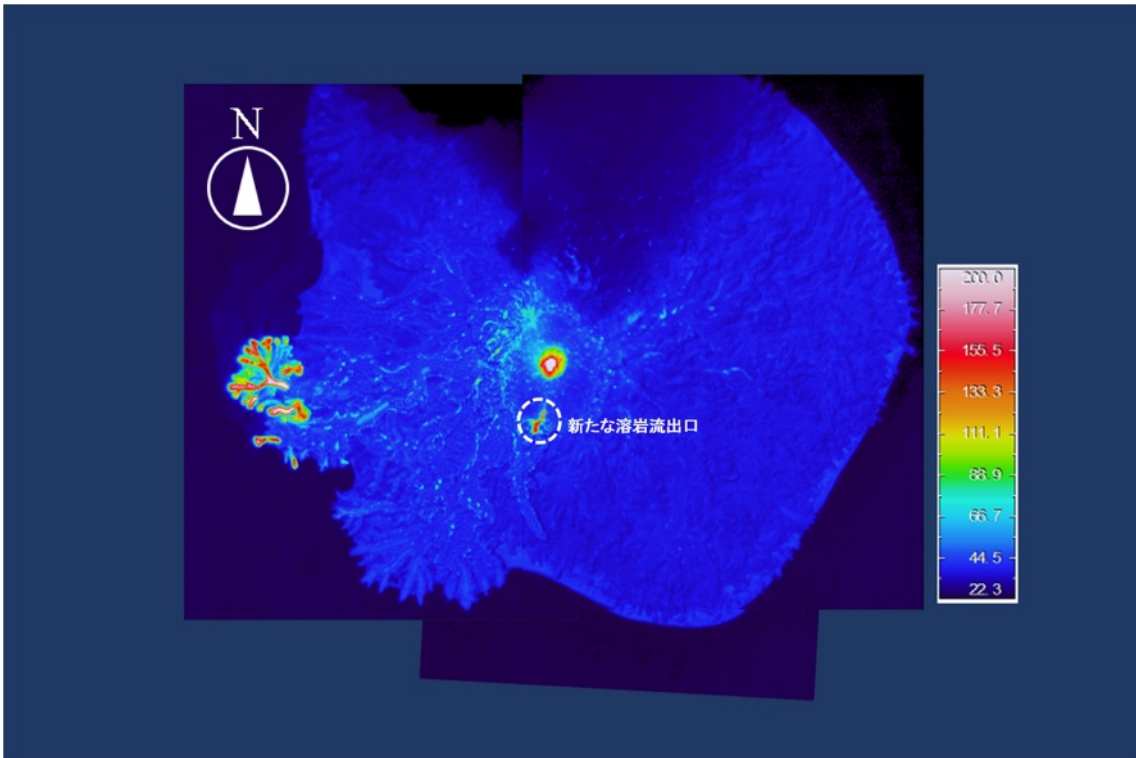


図2 西之島 熱映像（6月29日撮影）

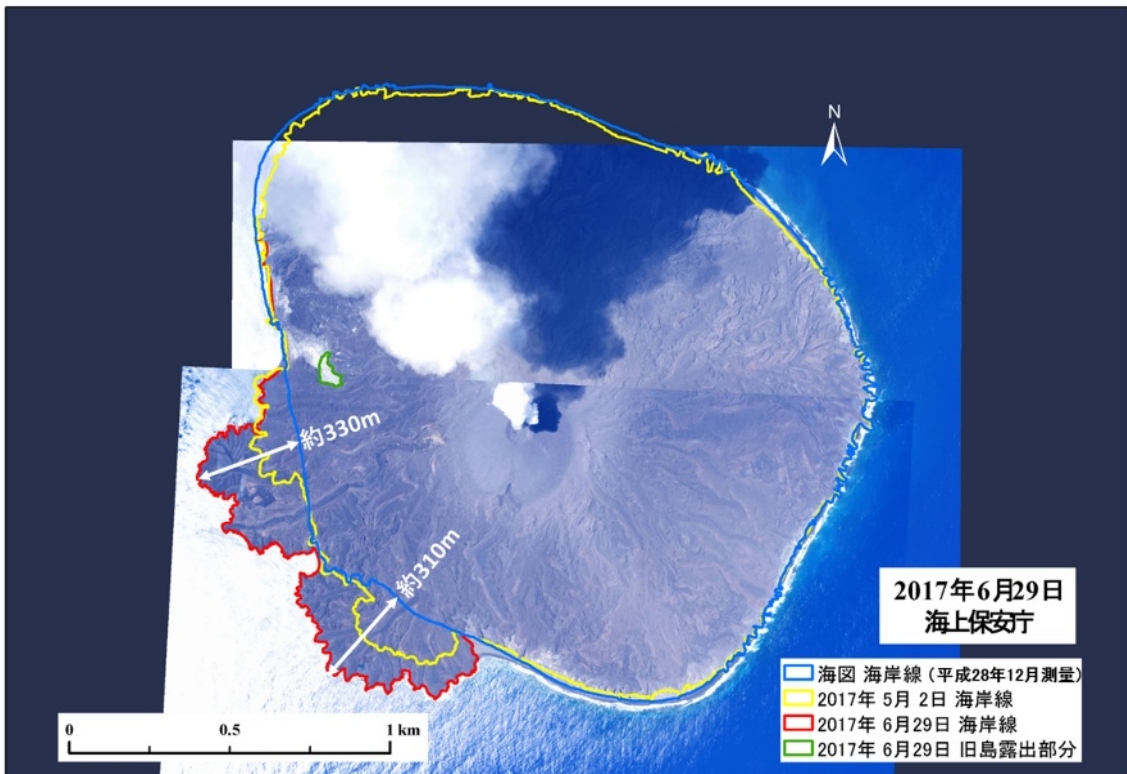


図3 西之島 空中写真（6月29日撮影）